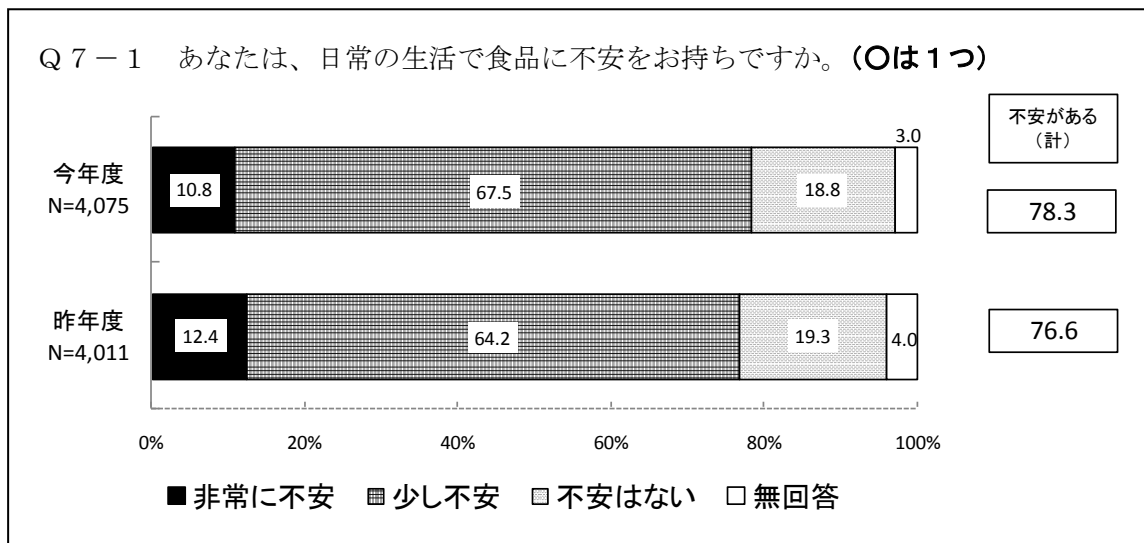


7. 食の安心・安全

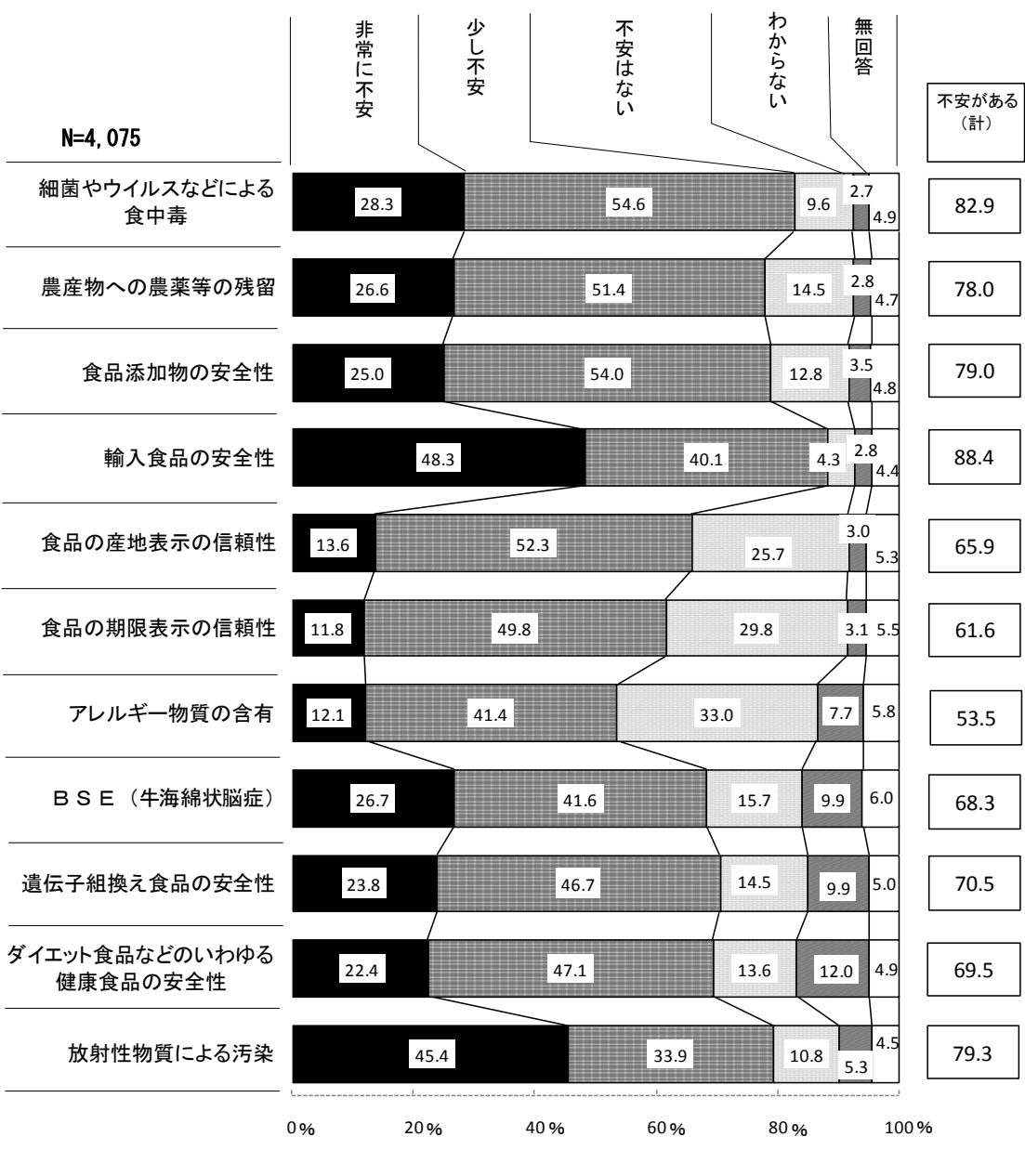
7-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「少し不安」が67.5%で最も高く、「非常に不安」は10.8%、「不安はない」は18.8%となっており、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安がある(計)』が78.3%になっている。昨年度と比較すると、『不安がある(計)』が1.7ポイント上昇している。

7-2. 食品に対する不安の要因

Q 7-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
 いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

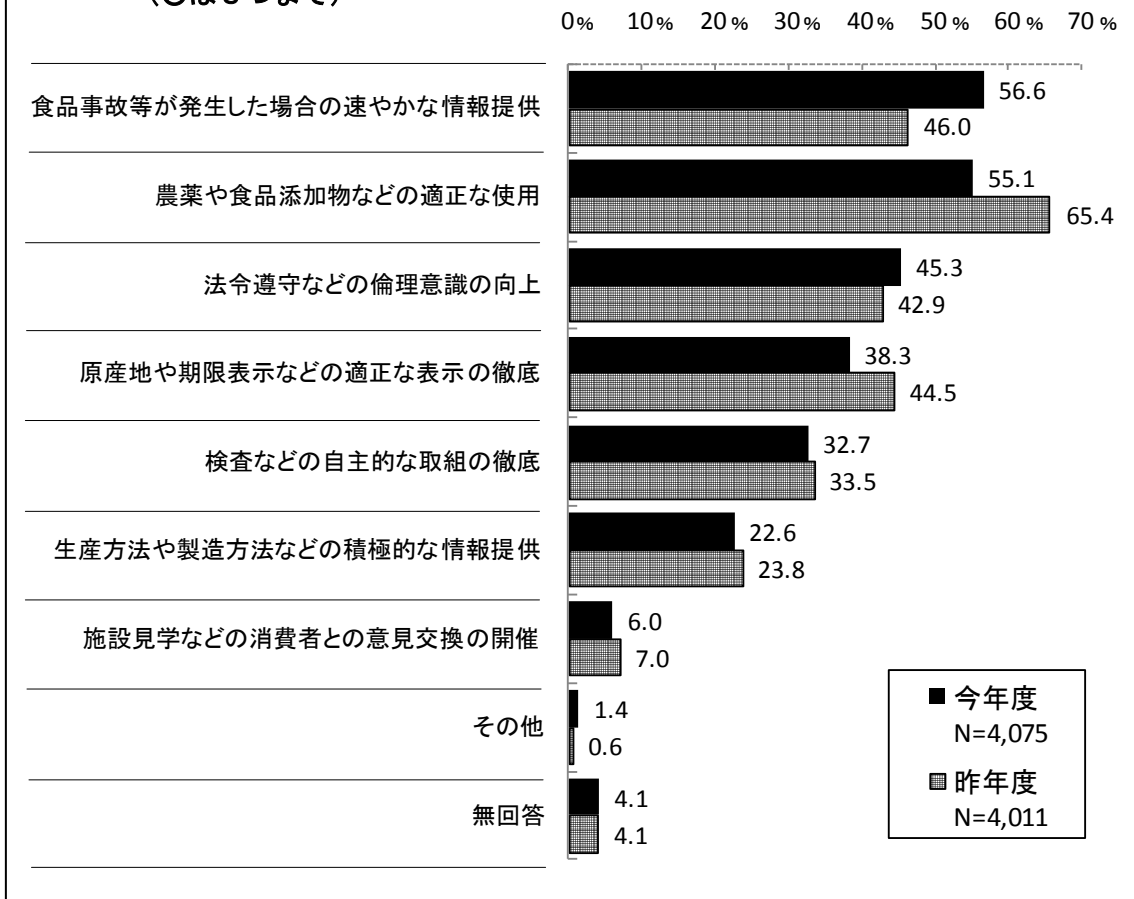


食品に対する不安の要因について、すべての項目で「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安がある (計)』が高くなっており、特に「輸入食品の安全性」(88.4%)、「細菌やウイルスなどによる食中毒」(82.9%)では8割を超えている。

7-3. 県民が安全で安心な食生活を送るために食品関係事業者に必要な取組

Q7-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関係事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」は、どのような取組が必要だと思いますか。

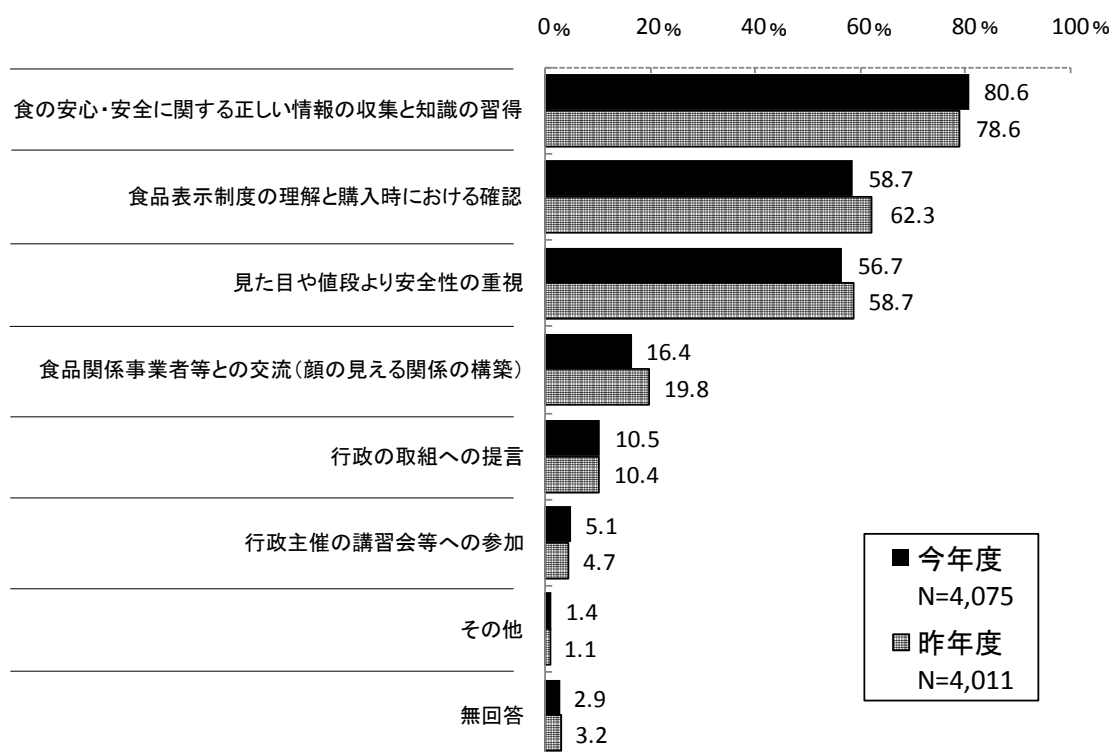
(〇は3つまで)



県民が安全で安心な食生活を送るために食品関係事業者に必要な取組について、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が56.6%と最も高く、次いで「農薬や食品添加物などの適正な使用」(55.1%)、「法令遵守などの倫理意識の向上」(45.3%)、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」(38.3%)、「検査などの自主的な取組の徹底」(32.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が10.6ポイント、「法令遵守などの倫理意識の向上」が2.4ポイント上昇しているが、「農薬や食品添加物などの適正な使用」が10.3ポイント低下している。

7-4. 県民が安全で安心な食生活を送るために消費者に必要な取組

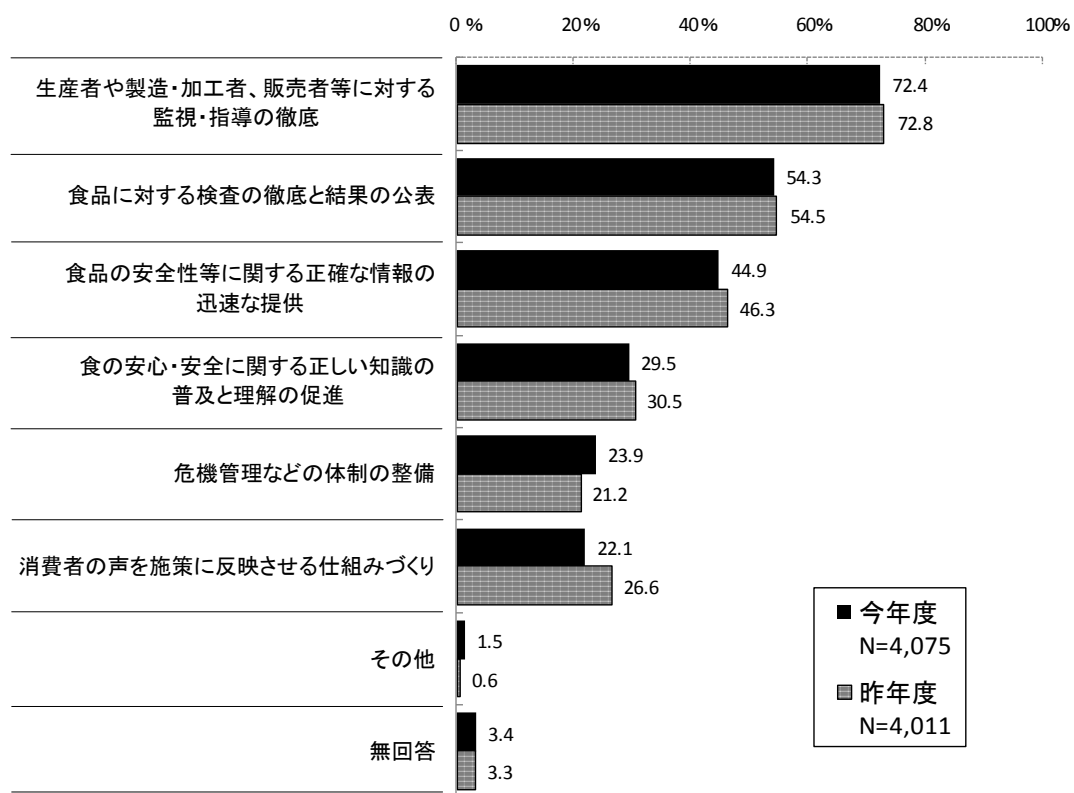
Q7-4 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「消費者」は、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



県民が安全で安心な食生活を送るために消費者に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が80.6%と最も高く、次いで「食品表示制度の理解と購入時における確認」(58.7%)、「見た目や値段より安全性の重視」(56.7%)、「食品関係事業者等との交流(顔の見える関係の構築)」(16.4%)、「行政の取組への提言」(10.5%)、「行政主催の講習会等への参加」(5.1%)の順となっている。昨年度と比較すると、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が2.0ポイント上昇しているが、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が3.6ポイント、「食品関係事業者等との交流(顔の見える関係の構築)」が3.4ポイント、「見た目や値段より安全性の重視」が2.0ポイント低下している。

7-5. 県民が安全で安心な食生活を送るために県が力を入れるべき対策

Q7-5 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「県」は、どのような対策に力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)



県民が安全で安心な食生活を送るために県が力を入れるべき対策について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が72.4%と最も高く、次いで「食品に対する検査の徹底と結果の公表」(54.3%)、「食品の安全性等に関する正確な情報の迅速な提供」(44.9%)、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」(29.5%)、「危機管理などの体制の整備」(23.9%)、「消費者の声を施策に反映させる仕組みづくり」(22.1%)の順となっている。昨年度と比較すると、「危機管理などの体制の整備」は2.7ポイント上昇しているが、「消費者の声を施策に反映させる仕組みづくり」が4.5ポイント、「食品の安全性等に関する正確な情報の迅速な提供」は1.4ポイント、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」は1.0ポイント低下している。